

加古川市立別府西小学校 (加古川市)



■新教育課程に対応できる施設、特色ある施設、開かれた施設の3つの理念を主体として、児童が主役になるように考慮されている。

■管理棟3階部分の円形の特別教室、とんがり屋根部分のペントハウス等が地域のランドマークとなるようにデザインされ、また、段差解消、エレベーターの設置などのバリアフリー化も推進されている。

筑紫の丘斎場 (太子町)



■柔らかなコンクリートの表情と白を基調にした落ち着いた空間、交差しないように考慮された会葬者の動線計画等が特徴的な施設である。

■丘の稜線となじむようにした大きな曲線や土盛りの境界等により、周辺環境に圧迫感を与えないデザインであり、また、自然素材を多く使用することで、環境に負荷を与えないよう考慮されている。

山崎町生涯学習センター 学遊館 (山崎町)



■本館は、木の温もりを生かした和風平屋建て建築で、外観、内装に木材を多用し、木質二方向ラーメン構造により広い室内空間を有した建物となっている。

■大屋根付き多目的広場は、間伐材を使ったハイブリッド木造スペースフレーム工法を採用し、森林王国をイメージした木の館として周辺の景観と調和している。



篠山市立中央図書館 (篠山市)



■外壁のイギリス産赤レンガとシンボリックな高さ25mの時計塔は、図書館にふさわしいアカデミックな雰囲気醸成し、地域の新しいランドマークとなっている。

■レンガ中空積工法は断熱性が高く、空調費の節約が図られ、雨水利用を行うなど環境負荷軽減対策が施されている。

滝野のアトリエ (滝野町)



■使われていなかった民家の土間とみそ蔵を、木造建築における限界耐力計算を使った耐震設計法により耐震補強して、アトリエとギャラリーに改修したものである。

■瓦屋根は板金にふき替え、外壁には構造用合板を用いるなど新素材を採用しているが、周囲の景観に溶け込むデザインとすることで、落ち着いた雰囲気醸成している。

生野まちづくり工房 井筒屋 (生野町)



■約170年前に建築されたかつての郷宿「井筒屋」は、景観形成地区内において、住民参加のもとに住民のまちづくり活動拠点施設として改修され、景観に配慮した民家改修のモデル的建築物となっている。

■生野町独自の生野瓦の再使用や鉾石を精錬した際に出るカスを固めたカラミ石の側溝への利用等、リサイクルと周辺の環境に配慮している。

※郷宿とは、江戸時代、近郷の村民が公用で代官所所在地などに出たときの定宿のこと。

播磨屋本店 朝来山荘 (朝来町)



■電気も水道もない大自然の中で、木・土・石といった自然の素材によって構成され、美しい自然との関係性をテーマに日本建築としての在り方を追求した迎賓施設である。

■断熱材やシーリング材をできるだけ排除し、継ぎ手や仕口等伝統工法を積極的に採用し、技術の継承を図っている。

■高低差のある敷地を蛇行していくアプローチは、建築に多彩な表情を与えている。